



民数記と山上の説教

2014.8.27

民数記 / マタイ3:-4:
40年後誘惑 40日後誘惑
「御名.日糧... / 主の祈り」

7:-10: 御国	20:-27: 悪救
11:-19: 罪救	28:-36: 御旨

— 民数記 —

申命記.

3:-1-12 <罪救> ① 荒野.ヨハネ ヨハネ まわりの羊. (1ペリカイ.サドカイ)	4:-1-11 <悪救> ④ 悪魔.霊
3:-13-17 天声 (衆の聲) 聖霊.バプテスマ <御旨> 「私は喜ぶ」 ③	4:-12-25 カリライヤ湖 イエス 兄弟.兄弟x2 ⑦

— マタイ3:-4: —

出. 民. <主の祈り> 新しい国 父の報い	5:3-20 報いは何か.	6: 報いは受ける日. <主の祈り>
上. 申. 隣人愛 命を懸け.	5:21-48 律法は何か.	7: 律法を行おう.

2009.10.9

山上の説教 (イエスの説教)

- 兄弟.兄弟は「捨てる従う」- ナザレ.物断の誓い
- ペリカイ.サドカイは.主の命怒りと受ける(神罰)
- 漁師を集める - 軍を集める.

民数記の全体を見ている中で、あ、あれっと思って気がついたことがありました。民数記の概略を分析して、民数記自体は主の御名があがめられて、日毎のパンが与えられたという主の祈りのテーマですね。それが4つに分かれていて、それぞれのテーマがありますよということなのですが…。

20章のところで、40年の荒野が終わって、これから入っていくというところが20章の最初にあります。20章から27章のところは、特に悪者、誘惑、敵から救われるという段落になっていますけれど、40年目が終わったところで、悪魔が出て来た、誘惑が来るというので、あっと思い出すのがマタイの4章です。

マタイ4章のところでバプテスマを受けられたあとに荒野に行くのです。悪魔の試みを受けるために御霊に導かれて荒野に行く。そして、40日40夜断食した後で試みる者が近づいてきた。それで戦います。それで、悪魔の誘惑に対して勝ちましたという4章があります。それが(右表)40日のあとで、こちら(左表)が40年となっています。

このマタイのストーリーを見ると、その前の段落は、御霊のバプテスマが与えられることですね。もう一つ前にいくと、バプテスマのヨハネが「罪を悔い改めなさい、神の国が近づいた」という宣言のところですね。それで、4章の先ほどの悪魔の箇所のアとはカリライヤ湖で弟子を2人集める、そして、また2人集めるというようなところで終わりますけれど、ここも、最初のヨハネが「天の御国が近づいた」ということを言って、4

章のほうはイエス様が「悔い改めなさい、天の御国が近づいた」というところで終わるひとつの段落ということがわかると思います。

この構成が、やはり、民数記が主の祈りの課題4つで構成されているのと同じように、このマタイの箇所も4つの分類ができるのではないかということです。最初に罪の赦し、ヨハネが罪の赦しを述べ伝えますよね。それで、天から声が聞こえて「私は喜ぶ、私の愛する子、それを生みました、これを私は喜びます」という天から栄光の雲が現れて、御心がなされる、聖霊のバプテスマが与えられました。それで、愛する子かどうかということが試される、この悪魔から救われて、それで、新しい民の出だしです。弟子を2人、弟子を別のまた2人というふうを選んで新しい国がここで構成される、始まります。そういう意味では、数えているという感じですかね。御国が始まりますというのが、マタイの最初のイエス様の人生の最初のところになっています。

モーセの教え.		山上説教 (イエスの教え)	
出. 新しい国	民.<主の祈り> 父の報い	5:3-20 報いは何か.	6: 報いを受けるに母. <主の祈り>
レビ 隣人愛	申. 隣人を愛しなさい.	5:21-48 律法は何か.	7: 律法を行おう.

2009.10.9

βηθαια兄弟は「捨てるに任す」- ナザレ人. 物断の誓い
バツヤイ. サドカイ人は. 主の御怒りを受ける(神罰)
漁師を集める - 軍を集める.

その4つの段落のあとに山上の説教があります。そして、民数記の話のあとに申命記がありますということですので、導きがあつて教え、導きがあつて教えということかと思えます。

山上の説教を分析すると、最初に「報いは何ですか」次に「律法は何ですか」「報いを受けるためにはどうするのですか」「律法を守る、行うとはどうしたらよいですか」という4つの段落に分かれて、この6番目のところ、「報いを受けるにはどうしたらよいですか」のところに、主の祈りがあります。

この4つ山上の説教の「報いは何か」「律法は何か」「律法を行うこと」「報いを受けるためには」というところが、モーセの教えの4つ、「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」にそれぞれ該当しているのかなというふうに思われます。

報いは何か、幸いなものよと言って始まる場所ですけれども、それは、天の御国はこういう人たちのものです。新しい国を作る出エジプト記、「天の御国はこういうものだ」というところから教えが始まります。

「殺すなということを聞いています」というところから始まって、「隣人を愛しなさい」というところで、律法の教えが(マタイ)5章21節からのところがありますけれども、それは、レビ記です。「隣人を愛しなさい」という命令でまとめられるレビ記。ローマの13章9節に「殺すな、姦淫するな」という戒めがありますけれども、これは、「隣人を愛しなさい」ということに要約されますとも言われています。

民数記は見てきたように、主の祈りの構造になって、天の父が与えてくださる報いを受けるためにはどうしたらいいのかということが書かれています。

申命記は、「聞きなさいイスラエル。この命令を聞いて守り行いなさい」聞く者、そして、聞かない者は滅び失せるというのが7章のマタイの山上の説教の終わりのところです。「裁くな、裁いてはいけません」というところから始まっている7章のところです。聞いて守り行い、隣人を憐れむ、貧しい者を憐れむというのが申命記の中心の教えにもなっていますけれども、「聞きなさい、イスラエル」というところが山上の説教の4段落目ということで、山上の説教の教えとモーセの教え全体が並行しています。

特に民数記が、主の祈りの概略に従っているということは、この6番目の「報いを受けるにはどうしたらいいのか」というところと並行していると思われるので、民数記が主の祈りの構造と並行しているというのは妥当かなと思われます。